

レベル	当該レベルへの引き上げの基準	当該レベルからの引き下げの基準
5	<p>【大規模噴火が切迫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山腹噴火が発生もしくは切迫 山腹からの噴火が開始するか、極めて顕著な山体膨張（島内の傾斜計のいずれかで 100 マイクロラジアンが観測され、大きな地震活動（マグニチュード 5 ならば 1 回、マグニチュード 4 ならば 2 回）が伴った場合は、大規模噴火発生の可能性が切迫していると考え、全島を警戒範囲とする。 火砕流が居住地域近く（居住地域まで数 100m）に到達。 溶岩流が居住地域付近（居住地域まで概ね 100m）に到達。 	<p>噴火が発生しなかった場合は、観測データに活動低下が 2 週間以上続いた場合。</p> <p>山腹噴火が発生した場合は、新たに形成された火口からの警戒範囲を定める必要がある。居住地が溶岩流や火砕流に被災した場合は、当該現象が終息した後、関係機関等の対策を考慮しながら、必要に応じ、噴火警戒レベルの再設定を行う</p>
4	<p>【これまでみられたような噴火（ブルカノ式噴火）の激化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな噴石が火口から 2.5km 以上に飛散 火砕流が居住地域近く（居住地域まで数 100m）に到達。 <p>【大規模噴火の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 溶岩の流出により溶岩が居住地域に接近（居住地域まで 500m）。 2015 年 8 月 15 日のような顕著な地殻変動（島内の傾斜計で 1 時間に 1 マイクロラジアン以上）を観測した場合は、火口から 3km を警戒が必要な範囲とするが、桜島付近を震源とするマグニチュード 2 以上の地震が 10 回以上（12 時間以内）発生した場合は、山腹噴火の可能性が高まったとして、警戒範囲を全島対象とする。 <p>【これまでみられたような噴火（ブルカノ式噴火）の激化の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな噴石が 2km を超えて 24 時間以内に 3 回飛散。 火口から約 2km を超える火砕流が発生もしくはその可能性。次のいずれかで判断する。 <ul style="list-style-type: none"> 火砕流が発生して、到達距離が火口から 2km を超えた場合。 目視できる場合は、火砕流が発生し、到達距離が確認できない場合でも、噴煙量階級 6（きわめて多量）の噴煙が 10 分以上続く。 目視できない場合は、島内の傾斜計において、数時間で 1 マイクロラジアン の変動が予想されるとき。 	<p>大きな噴石や火砕流が当該距離に影響する爆発的噴火が 3 日間発生しない（火砕流は居住地域に達していない場合）</p> <p>噴火が発生しなかった場合は、観測データに活動低下が 2 週間以上続いた場合。</p> <p>大きな噴石や火砕流が当該距離に影響する爆発的噴火が 3 日間発生しない（火砕流は居住地域に達していない場合）</p>
3	<p>【警戒範囲を 2 km 以上に広げる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな噴石を 2 合目（2 km 以上）から 2.4km 以下に飛散させる爆発的噴火が発生 火砕流の流下が火口から 1.5km を超え、居住地域への接近が予想される。 <p>【警戒範囲 2 km まで】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな噴石飛散 3 合目～4 合目の噴火発生。 火砕流発生（到達距離 1.5km 以内） 噴火の規模が大きくなり、噴火活動が活発化。 大きな噴石飛散 5 合目の噴火が任意の 24 時間に 4 回以上発生、もしくは、噴煙量階級 5（多量）以上の噴火発生 火口直下の膨張を示す変化を観測（島内の伸縮計で火口直交方向成分が 1 日以内で 50 ナノストレイン 以上、もしくは島内傾斜計で 50 ナノラジアン以上の変動となると予想される）。 	<p>大きな噴石や火砕流が左記距離に影響する同様の噴火が 3 日間発生せず、さらなる活動の活発化が見られない場合、警戒範囲を 2km までに戻す（火砕流は居住地域に達していない場合）</p> <p>昭和火口および南岳山頂火口で噴火が 2 週間連続して発生しない、又は 1 ヶ月間断続的(10 日に 4～5 回)に発生する程度の活動であり、地震・微動の発生が少なく（地震・微動とも 1 日当たり概ね 10 回以下）、顕著な地殻変動が見られない状態になる。</p>
<p>この判定基準は、気象庁内及び桜島火山防災連絡会における検討を経て、また新たな事例等を通じて順次修正される。</p> <p>ここでいう「大きな噴石」とは、風の影響を受けずに弾道を描いて飛散するものとする。</p> <p>これまで観測されたことのないような観測データの変化があった場合や新たな観測データや知見が得られた場合はそれらを加味して評価した上でレベルを判断することもある。</p> <p>火山の状況によっては、異常が観測されずに噴火する場合もあり、レベルの発表が必ずしも段階を追って順番通りになるとは限らない（下がるときも同様）。</p> <p>レベル 5 からレベルを下げる場合にはレベル 4 ではなくレベル 3 に下げるものとする。</p>		